教職員森林体験学習研修会の開催

長野県林務部林業振興課　技術専門員・林業専門技術員　○山口勝也

要旨

新しい学習指導要領への切り替えに伴い学校に導入された「総合的な学習」において、森林体験学習がより一層実践されるように、教職員向けの学習プログラム集を中部森林管理局と協同で作成配布するとともに、森林体験学習研修会を６回開催し、７０名の参加を得ました。実績と反省を生かし、来年度以降も効果的な研修会を継続していく計画です。

はじめに

新学習指導要領への切り替えに伴って、本年度から学校に導入されたのが「総合的な学習」です。

「総合的な学習」では、「生きる力」の育成を目指して、地域の自然や施設を積極的に生かした体験学習が行われます。学習の内容は国際理解、環境、情報、福祉・健康など何でも良く、各学校、学級の創意、工夫で独自に決めることになっていて、教科書はありません。

学習時間は小学校では年間１０５時間で社会や理科より多いのだそうです。

今までにやったことがない学習指導で、頼りになる教科書はない、時間がたっぷりあって、地域にでていかなければならない…、先生方の多くは困惑してるかも知れないと考えました。

そして、こうした先生の支援をすることで、学校教育の現場に森林・林業教育を一層浸透させることができる大きなチャンスが訪れたと考えました。

1　これまでの森林・林業教育

学校におけるこれまでの森林・林業教育は、森林・林業関係者が、学校からの依頼を受けて、限られた時間の中で、断片的な技術・知識の伝達しかできず、学習の目的やその効果を指導者が確認できない場合が多かったように思われます。

一方、これからは、学校での「総合的な学習」の導入や森林への関心が高まっていることなどから、森林・林業教育への需要は増加することが見込まれ、林務行政だけでは対応しきれない状況になると考えました。

2　学習支援システム

こうしたことを踏まえて、林務部では学校での森林体験学習を推進するために、プロジェクトチームを立ち上げて検討を重ねました。学校へのアンケートも行い、先生方が何を必要としているかを調べました。

その結果、林務行政が行える支援は、学習フィールドの確保と整備、学習指導者の確保と紹介、学習プログラムの作成と提供、以上三つが効果的であるとの結論に達しました。

特に学習プログラムの作成と提供としては、学習プログラム集の作成・配付とこれを教本とした教職員研修会を実施しました。

3　学習プログラム集の作成・配付

まず、取り組んだのが教職員向けの学習プログラム集の作成でした。

「いつでも、どこでも、誰にでも実施できる内容」をコンセプトに、事例収集などを行い、四つの小学校の事例紹介とそこで実施可能と思われた八つのカリキュラム案、そしてゲームや自然観察、

調査など４４のアクテイビティを収録しました。

文字はできるだけ少なくし、図や写真をたくさん使って、見やすくわかりやすく、子供達でも理解出来る内容に仕上げました。

このプログラム集は３千部印刷して県下全小学校などに配付しました。

写真―１　「森は友達・森は先生」

４　森林体験学習研修会の開催

次に行ったのが、この冊子を教本とした教職員研修会です。

県下６ヶ所で１日ずつ、計６回の教職員森林体験学習研修会を学校の夏休みに開催しました。

（１）研修会に当たっての留意点

この研修会を企画するにあたって気をつけていたことが二つあります。

一つ目は、よく言われるフレーズですが、研修会の実施にあたっては結構重要だと考えています。

・聞いたことは、忘れる

・見たことは、時々思い出す

・体験したことは、忘れない

・発見したことは、自分のものになる

今回の研修会は、講義や説明の時間はなるべく少なくし、体験を通じて参加者なりの発見をしてもらえるように心掛けました。このことは、私たちが子供達への指導を行う際にも当然心掛け

なければならないと思います。

二つ目は、学習の段階です。

楽しむ、関心を持つ、考える、気付く、行動するの５つの段階を考えて研修会を組み立てました。

参加者に森林の楽しさを実体験してもらいたい、身近な森林に関心を持ってもらいたい、自分自身の生活と森林とのより良い関係について考えてもらいたい。ここまでは今回の研修の目的です。

研修の効果として、森林の大切さや森林を利用することの重要性に自然に気付いてくれる、そして、先生方が学校でも自主的に森林・林業教育を展開してくれることにつながっていくと考えました。

（２）研修会の内容

研修会のメニューは次のようなもので、６ヶ所とも概ね同じ内容で行いました。

まず、楽しい体験をたっぷりしてもらって、最後にちょっと考えてもらうというパターンです。

ア　燻製づくり（写真―２参照）

段ボール箱で簡易燻煙器を作り、炭とコナラのチップを使って行う簡単燻製で、チーズ、ゆで卵、ソーセージなどを燻煙しました。参加された先生から「ビールのつまみに最高だった」と、後日、感想が届きました

イ　葉っぱのゲーム（写真―３参照）

葉っぱを使ったジャンケンや葉っぱの特徴を伝えて目的の葉を採取する伝言ゲームなどを行いました。参加者は皆、子供にもどったように山の中を駆け回っていました。

ウ　樹木の名前調べ

樹木の葉を検索しながら木の名前を調べる図鑑がありますが、これを使って、樹木の名前を調べました。葉と図鑑を交互にじっくりにらんで、葉の特徴に気付いた方も多かったようです。

エ　ロープで遊具づくり（写真―４参照）

最初にロープの端末処理をし、簡単なロープワークを練習した後、立木にロープを張り、渡り綱を作りました。ロープの端末処理には、皆さん悪銭苦闘のようでした。

オ　バターナイフづくり（写真―５参照）

直径５ｃｍ程度の広葉樹の小丸太、これは校庭の植栽を剪定した枝程度で十分だと思われますが、そんなどこでも手に入る小丸太を材料としてバターナイフを作りました。ナタで粗割りし、小刀で削って思い思いの作品を作りました。静まり返った教室で、一心不乱に木を削る先生方の姿が印象的でした。１時間ほどの作業で個性あふれる作品ができあがりました

体験アクティビティは以上の六つでした。特に燻製づくりは簡単な道具で美味しく作れることに驚いた先生が多かったようです。また、バターナイフづくりでは、皆さん思いの他一生懸命取り組んでおられ、こちらが驚かされました。

カ　まとめ

最後にまとめとして一日の体験を振り返り、今後への問題提起を行いました。

地球的な規模での環境保全に向けて、森林への関心が世界的に高まっていること、長野県は８割が森林で世界的に見ると大変森に恵まれていること、これはジャングルの島、パプアニューギニアとほぼ同じ森林率であること、でもそこに住んでいる我々の多くは身近な森のことをほとん

ど知らないことなどをお話ししましたが、参加者は驚き、また納得した様子でした。

さらに、今日、体験し発見した驚きや感動、楽しさを子供達に伝え、子供達と一緒に森のことを考えていって欲しいと呼びかけました。

森の働きや大切さについては、敢えて触れず参加者自身に考えてもらおうと考えました。

写真―2　燻製づくり

写真―3　葉っぱのゲーム

写真―4　ロープで遊具づくり

写真―5　バターナイフづくり

（3）参加者の反応

参加者にはアンケートに協力して頂きましたが、次のような声が寄せられました。

- 森に親しむプログラムが工夫されていて、大変勉強になりました。
- 身近な森を使って授業を仕組めそうです。
- 楽しく、体験中心で、児童にも即生かせそうな内容でよかった。
- 参加すれば、誰もがきっと「おもしろい」と思い、これからの生活が豊かになること請け合い。
- 美味しいお土産付きで、充実した一日にしていただき、ありがとうございました。

このように、先生方には十分楽しんでいただけたようです。

森林体験学習を子供達と進めていってもらうためには、先生自身がそれを楽しむことが必要で、そのための実体験の機会を用意することが不可欠だと感じました。

一方、次のような声もありました。

- 特殊な分野との先入観があったが、研修してみて考えなおしました。
- プログラム集の存在を全く知りませんでした。
- プログラム集を見ただけでは分からなかったことが、実体験を通して理解できました。
- プログラム集を活用するには、自分で体験してみる必要があります。

このようなことから、冊子を学校に配付するだけでは効果は期待しにくく、こうした研修会で実際に体験してもらうことが必要であることが改めて確認できました。

5　今後の研修会に向けて

本年度の実績と反省を生かし、来年度も研修会を開催していく予定です。

参加者の反応を見ると、前述した学習の段階の内、「楽しさを体験」することと、「森林に関心を持つ」ことはほぼ目的どおりに達成できたと思われます。

しかし、その次の段階の自分と身近な森との「良い関係を考える」ところまでは誘導できなかったように思えます。先生方の自主的で効果的な学習活動を確保するには、この段階が最も重要であると考えられるので、研修プログラムの改良が必要であると考えています。

また、参加者数が目標に比べてかなり少なかったことも改善を要する点です。

実施時期、場所、時間、内容など学校側の希望をなるべく尊重して実施できるよう、学校に希望照会をして準備を進めています。

おわりに

今日は学習プログラムの作成と提供について報告しましたが、これに加えて学習フィールドの確保と整備や地域の指導者の確保、育成に向けた取り組みも継続する予定です。

学校現場での森林体験学習はまだまだ一般的ではないようですが、本日報告した取り組みを継続し、一人でも多くの先生に、子供達と一緒に森のこと自分の事を考えていくようになってもらいたい、長野県中の学校であたりまえのように森林体験学習が行われるようになってもらいたいと考えています。

この取り組みに当たっては、中部森林管理局の杉山計画部長さんはじめ、松本流域管理指導官さん、指導普及第一課の皆様、そして各地の森林管理署の皆様にもご理解とご協力をいただきました。特に指導普及第一課の柳澤補佐さんには大変お世話になりました。

この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。